

平成30年度

事業計画書



救護活動

救護活動は赤十字の最も重要な使命の一つです。災害発生直後の医療救護をはじめとする応急対応はもちろんのこと、復旧・復興から減災・防災まで活動の幅を広げていきます。

そのために、医療救護体制の強化をはじめ平成29年度から展開している防災教育事業を一層充実させ、地域コミュニティにおける防災意識向上を図り、災害による被害の軽減・抑止に貢献します。

救護班の編成

災害時、直ちに被災地に出動し被災者の救護活動が行えるよう、救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、玉野分院1個班）54名を編成します。

救護員の訓練・研修

近年多発する災害に備え迅速に対応するため、救護員に対する各種訓練・研修により救護技術・知識の向上に努めます。

また、被災者・救援者に対する心理社会的支援を行うために「災害時のこころのケア」についても研修をすすめます。

被災者の救援

被災者に毛布・緊急セット・バスタオル等の救援物資を配布し、災害により死亡された方にはご遺族に対し弔慰金を交付します。

義援金の募集

災害時には、県や他団体との協力のもと必要に応じて義援金の募集を行い、被災者の支援に努めます。

臨時救護の実施

不特定多数の人々が集う公共的なイベントや大規模なスポーツ大会等において、参加者等の安全を図るために、医師、看護師、主事等で編成された救護班やボランティアを派遣します。



●防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

災害からいのちを守るため、地域コミュニティにおける「自助」、「共助」の力を高めることを目的に、災害図上訓練（DIG）や応急手当、非常食炊き出し体験等のプログラムの指導・運営を行う指導者を町内会・自治会等へ派遣します。



提供可能なプログラム例

災害図上訓練 (DIG)	住民が居住地域の防災上の脆弱性や強みを地図上で確認し、地図を囲んでの意見交換を通じて防災意識を高める。
災害エスノグラフィ	過去の大規模災害の被災者の経験談を再編集した読み物を通じて過去の災害を追体験し、被災の具体的なイメージを理解する。
応急手当	身近にあるものを用いた応急手当や一次救命処置を学ぶ。
非常食炊き出し	炊飯袋等を使用した非常食の体験を通じて災害時の食を考える。
災害への備え	災害からいのちを守り身の安全を確保するため、平時から準備すべきことを理解する。

2

国際活動

赤十字は191の国や地域に広がる世界的ネットワークを活かし、人々の苦痛を軽減し、予防するためのさまざまな国際活動を行っています。

●東ティモール救急法普及支援事業

緊急時や事故発生時に、救急法を実施できる人を増やすため、講習用資器材整備等の財政面の支援や、人材育成にかかるボランティア等の指導員を派遣します。

●インドネシア・コミュニティ防災事業

地域の災害対応能力の強化を図るため、住民に対する災害訓練や啓発活動を財政面で支援します。

●アジア・大洋州給水・衛生キット支援事業

被災時において安全な飲料水の入手や清潔な仮設トイレを使用するための資器材の整備を財政面で支援します。

●海外救援金の募集

●「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施



3

医療事業

日本赤十字社では、県内に岡山赤十字病院、岡山赤十字病院玉野分院、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホームを設置運営し、各施設で特色ある医療事業を展開しています。

●岡山赤十字病院

岡山県より基幹災害拠点病院に指定されており、被災地への救護班、DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣、傷病者の受け入れを行うため、日頃から訓練や研修を実施しています。

また、平時においては救命救急センターを中心とした救急医療を行うとともに、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院、岡山市認知症疾患医療センター等としての使命を果たすべく全職員で取り組みます。今後も地域の診療所等との連携を推進し、地域における中核病院としての役割を果たし、急性期病院としての病床機能維持と地域医療の推進に努めます。

さらに、平成39年度の病院創立100周年に向け、新本館建設等の第二期建設計画を遂行すべく収支改善対策に取り組みます。



●岡山赤十字病院玉野分院

岡山赤十字病院や地域医療機関と連携し、内科系の回復期、慢性期を中心に、在宅復帰を目指した医療を提供します。

●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

介護を要する高齢者等の心身の自立を支援し、包括的ケアサービスを提供する役割を担い、在宅復帰を目指します。また、ショートステイや通所リハビリテーションを提供します。

居宅介護支援事業所では、利用者に合った最適な介護保険サービスをマネジメントします。



●「赤十字健康講座」等の開催

県内の赤十字施設が連携し、医師や看護師等が講師となり「赤十字健康講座」を開催します。

また、地域からの要望に応じて医師等を派遣する「健康講演」により、県民の皆さまの健康増進を図ります。

近年、子どものアレルギー疾患は増加しており、学校給食でのアレルギー事故など、学校現場におけるアレルギー・アナフィラキシーへの対処が課題となっています。日本赤十字社岡山県支部は岡山赤十字病院と岡山県教育委員会と協力し、教職員対象の研修を開催します。



4

看護師養成事業

岡山赤十字看護専門学校では、人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力を持った看護実践者を育成しています。

1学年定員40名で、恵まれた実習環境のなか、個性を尊重した教育を行っています。

看護実践力、社会人基礎力の高い学生の育成を目指し、倫理教育や看護技術教育、医療安全教育の充実、赤十字活動やボランティア活動への参加支援、学生が自己の経験や看護実践をリフレクションし主体的に学ぶ力の育成に努めます。



岡山県赤十字血液センターでは、病気やけがなどで輸血を必要としている患者さんの尊い生命を救うため、献血ルームうららと献血ルームももたろう及び移動採血バスで採血業務を行うとともに、輸血用血液製剤を24時間体制で医療機関に対し供給しています。

●献血者の確保対策

輸血用血液の安定的確保について、広くゆったりとした快適な環境で、医療機関からの需要に即した種類の献血(全血献血・成分献血)をお願いできるよう固定施設(献血ルームうらら・ももたろう)へお越しいただくため各献血ルームでのキャンペーンや各種イベントを実施いたします。

特に昨年度から導入した妊婦や出産される方のご家族に対して、輸血の必要な人に贈っていただくための「ファミリー献血」の推進を強化します。

また、高校出前講座や「キッズ献血」・「MOGI 献血」を実施し、若年層が献血に触れ合う機会を増やすことで、広く献血への理解を求め、将来的な献血者の確保に努めます。

さらに、「複数回献血協力者確保対策」等の継続事業については、これまで協力いただいた献血協力団体等との連携を強化するとともに、献血WEEK等を実施し、一人でも多くの献血者の確保に向け積極的に取り組みます。

●医療情報活動の充実

岡山県内の医療機関との情報共有及び連携並びに輸血技術強化を図るための事業を取りまとめた「医療情報活動事業」を平成29年度に引き続き実施します。

特に供給懇談会等を開催して医療機関との情報共有化及び連携を図ります。

また、輸血検査に関わる座学及び実技研修会や血液製剤の取扱いに関する研修会を開催し、医療機関で実際に輸血に携わる臨床検査技師、看護師の輸血技術の強化を図ります。

●骨髓ドナー登録の推進

献血会場においてポスター等によるPRを行うなど、骨髓バンク周知にかかる環境を整えるとともに、県、市町村、(公財)日本骨髓バンク及びボランティアなどと密接に連携・協力体制を構築し、骨髓ドナー登録を希望される方への登録機会を増やすよう努めます。

●地域に開かれた血液センターの展開

地域に根差した血液センターとしての役割を發揮するため、研修室、ボランティア室等の活用を促進するとともに、特に、血液センターと表町出張所のボランティアルームを広く地域に開放し、献血の啓発を推進するとともに住民への災害時の一時避難場所とするなど、地域福祉に貢献する血液センターを目指します。



6

救急法等の講習

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を掲げて、救急法・水上安全法・雪上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習の5つの講習を行っています。

日常生活に役立つ知識や技術を広く一般に普及するためこれら講習を開催するとともに、地域や各種団体等からの要望により指導員の派遣も行います。

また今年度は、幼児安全法指導員を養成し講習普及の充実を図ります。



赤十字救急法競技大会

県民の皆さんに参加いただき、日常生活における安全意識を高めるとともに、事故や災害時にお互いが助け合い、行動に移すことができることを目的として開催します。

ワールド・ファーストエイド・デー

国際赤十字・赤新月社連盟では、毎年9月の第2土曜日を「ワールド・ファーストエイド・デー」と定め、世界中の赤十字・赤新月社で救急法を普及するイベントを開催しており、岡山県支部においても同様に開催いたします。

● AED (自動体外式除細動器) 貸出

県内で開催されるイベント等に対し AED の貸出を行います。

7

赤十字ボランティア

赤十字の活動は、多くのボランティアによって支えられています。

赤十字活動の担い手でもある赤十字ボランティアの強化のため、研修などを通じてより一層の活動の推進を図ります。

●防災ボランティアの養成

赤十字では、救護活動のサポートをはじめ、被災者のニーズに沿った活動を行う防災ボランティアを養成しています。

実践的な研修等を通じて知識や技術のさらなる向上を図るとともに、活動をコーディネートするボランティア・リーダーの養成にも努めます。



●地域赤十字奉仕団の活動推進

より多くの方に赤十字を身近に感じていただけるよう、各地域に根差した活動を行うため、地域のリーダーを対象とした研修を実施するとともに、円滑な赤十字活動のための啓発を行います。

また、未結成地域に対して奉仕団の結成に努めます。

●特殊赤十字奉仕団の育成

それぞれの団が持つ専門知識や技術を活かして、災害救護活動や点訳教室等、特色あるボランティア活動を実践しています。

ボランティアとしての資質を向上し、より積極的に活動が展開できるよう研修を実施します。

●青年赤十字奉仕団の育成

学生や勤労青年が同年代に対し、防災意識や AIDS・HIV 予防の普及啓発を行うほか、青少年赤十字 (JRC) や広報活動への協力にも取り組んでいます。

より一層充実した活動が展開できるよう、赤十字や防災に関する研修を実施します。

8

青少年赤十字 (JRC)

青少年赤十字 (JRC) は、将来を担う児童・生徒に「命の大切さと人間の尊厳」を伝えるために、教育現場の先生方と赤十字が協力して創り育ててきたものです。

「気づき・考え・実行する」という態度目標に基づき、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の三つを実践目標として、学校教育のなかで活動を展開しています。

教育委員会との連携を深め、指導者の養成を図るとともに加盟校の増強に努めます。

また、トレーニング・センター参加者の増募や青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」の普及を目指します。



日本赤十字社岡山県支部の行う事業にご賛同いただき、活動資金への協力やボランティア活動への参加等を推進するため、各種メディアやイベント等において広報活動を行います。

また、日頃より赤十字にご協力いただいている会員や奉仕団員の皆さんに対しても、ホームページやフェイスブック等を通じた情報発信に努めます。

●広報紙の発行

- テレビ・ラジオ CM の放送による活動資金への協力呼びかけ
- 5月の赤十字運動月間における新聞広告の掲出
- 利便性の向上を目的としたホームページのリニューアル
- フェイスブックによる支援者層の拡大とイメージアップ
- ノベルティグッズの製作・配付
- 大型イベントにおける赤十字ブースの出展



岡山赤十字フェスティバル

地域の皆さまが赤十字の各事業に親しみ信頼を深めていただくこと、また、広報活動の一環として、県内の赤十字施設が協働して開催するイベントです。

本年度は4回目で、5月12日（土）に岡山赤十字病院において開催する予定です。



赤十字の理念や活動に賛同し、毎年一定額以上の活動資金にご協力いただく「会員」及び「活動資金」（会員の皆さまよりお寄せいただく会費・寄付金）は、いずれも減少傾向が続いています。

日本赤十字社の活動を支える財源である「活動資金」の募集においては、お一人でも多くの方々の賛同を得て、会員加入につながるよう、時代の変化を捉えた取り組みを進めています。

今年度の目標額は、以下のとおりです。

(単位：千円)

平成30年度活動資金目標額		300,000
内訳	個人	255,000
	法人	45,000

●地区・分区による活動資金の募集機会の拡充

主に個人から寄せられる活動資金の減少に歯止めをかけるため、県下の各地域における赤十字担当窓口である地区・分区との連携に努めます。

また、各地域におけるイベントでの活動資金の募集機会を拡充する等、増強にも努めます。

●寄付方法の見直しと推進

ダイレクトメールによる活動資金募集の強化を継続し、募金箱や赤十字支援自動販売機の設置先等の見直しを進めます。

●法人への協力依頼

活動資金の協力依頼にとどまらず、法人（企業・団体）とのタイアップを見据えた働きかけに努めます。

企業に対しては、業種に応じた社会貢献活動を呼び掛けます。

●遺贈・相続財産による寄付の推進

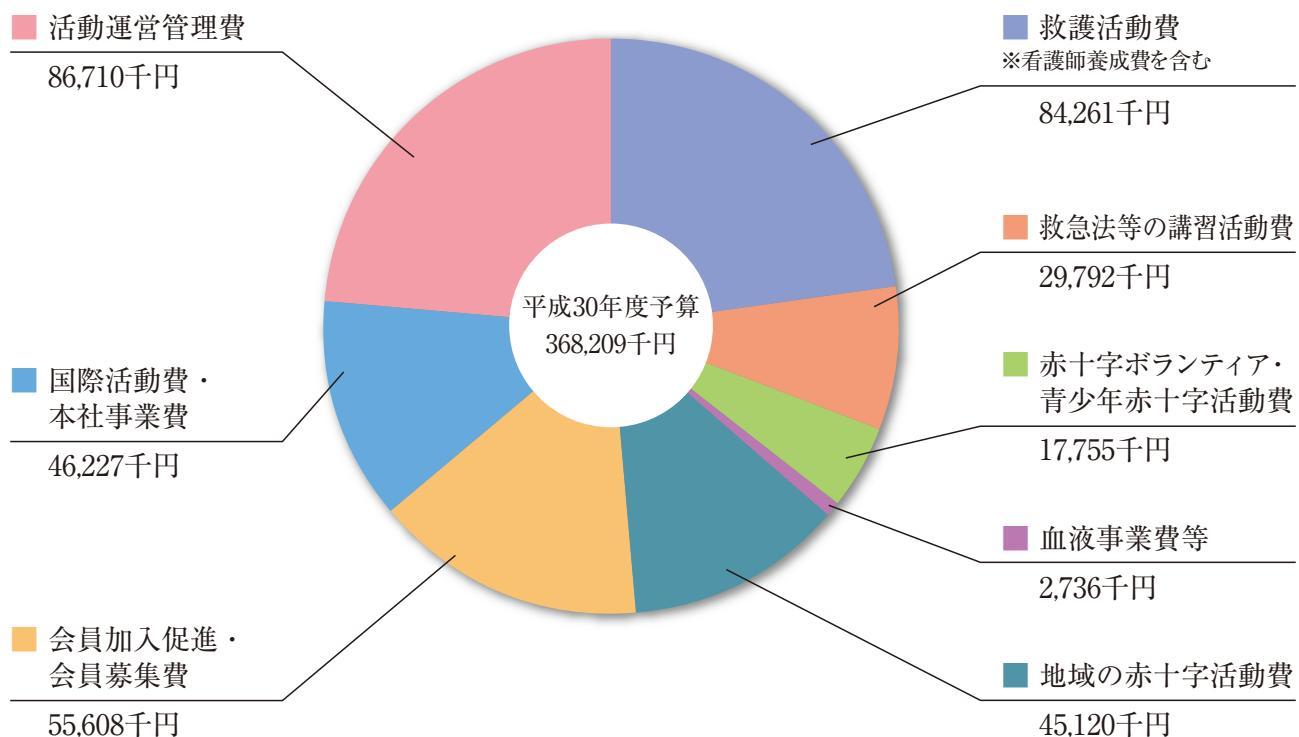
社会的な関心の高まりを見せる遺贈・相続財産による寄付について、情報収集や具体的な取り組みのための仕組みやネットワークの構築に努めます。



平成30年度一般会計歳入歳出予算概要

(単位：千円)

科 目	平成30年度予算額
活動資金（会費及び寄付金）収入	300,000
本社交付金収入	1,110
資金繰入金収入	15,000
各種講習教本代等雑収入	6,800
前年度繰越金	45,299
歳 入 計	368,209
救護活動費 ※看護師養成費を含む	84,261
救急法等の講習活動費	29,792
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	17,755
血液事業費等	2,736
地域の赤十字活動費	45,120
会員加入促進・会員募集費	55,608
国際活動費・本社事業費	46,227
活動運営管理費	86,710
歳 出 計	368,209





活動内容はFacebookページをご覧ください
<https://www.facebook.com/japaneseredcross.okayama>



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部

〒700-0823 岡山市北区丸の内二丁目7番20号 TEL 086-221-9595 FAX 086-221-9599 <http://www.okayama.jrc.or.jp>